

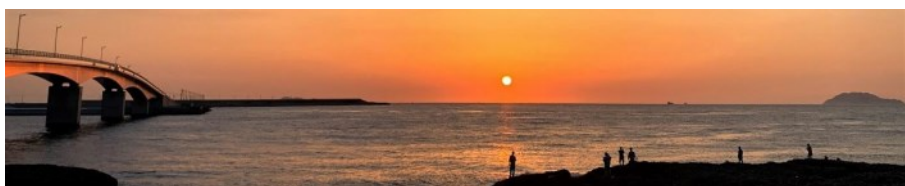
旭陵

Kyokuryo

乗り越えて、

この先の未来へ…

KYOKURYO annual vol.30 October 2020



Contents *annual vol.30 October 2020*

- 3 ごあいさつ
- 6 旭陵ゴルフクラブ
- 8 現役西高生だより
- 10 大学進学実績
- 12 旭陵同窓会だより
- 14 特別寄稿「ニュー・ノーマルを生きる」
- 16 MAGIC HOUR IN SHIMONOSEKI
- 18 旭陵同窓会東京支部2019活動報告/2020活動計画、2020年度東京支部役員一覧
- 19 第66期幹事団、編集後記

ともに困難を乗り越えよう

旭陵同窓会東京支部長 木村 康則(第52期生 / 1975年卒)



旭陵同窓会東京支部の皆様、こんにちは。本来ならばここで東京支部総会に向けてご挨拶をするはずなのですが、今年はコロナ禍の影響で支部総会を中止したため、このような形での挨拶となってしまい、とても残念です。

昨年大晦日に最初に報道された新型コロナウイルスは、瞬く間に全世界に広がり、日本でも大きな災難となりました。当初は5月の連休明けには終息するかと期待したのですが、見事に裏切られ、長期戦の様相を見せています。私達はいま新型コロナウイルスの伝播を抑えるために行動や事業を自粛しながら、経済も疲弊させないことにチャレンジしています。

新型コロナウイルスは私達の生活スタイルを大きく変化させました。例えば“テレワーク”です。私自身、最初はどうかと思ったのですが、やってみると意外とうまくいくことに気が付きました。通勤時間が無くなって時間的な余裕ができ、たまに出勤する時も、電車が混んでいないので快適です。

いま日本では、少子高齢化社会に伴う労働人口の減少、社会保障費の増大が課題となっています。これの解決には(私を含め)元気なシニアがもっと働くことでしょうか。でも“満員電車で揺られて”はもう嫌だし、自宅でゆっくり自分

のペースで働きたい。

そのとき、例えばVR(仮想現実)やAR(拡張現実)技術を伴ったテレワークシステムがあれば、健康である限り、生きがいを感じながら働ける環境が実現されるかも知れません。今のコロナ禍は、私達に10年後20年後の社会を強制的に経験させています。私達に将来の姿を考えるきっかけにしないかと言っているようでもあります。歴史を振り返ると、14世紀ヨーロッパでのペストの蔓延と、その後の社会の変化がルネサンスの遠因になったと言われていています。17世紀にイギリスでペストが広がったときには、休校になったケンブリッジ大学から2年ほど帰郷していたニュートンがその期間中に万有引力の法則や微積分法などを着想しました。

我が下関西高は、産学官に多くの優秀な人材を輩出しています。このコロナ禍を単に災で終わらせるのではなく、転じて福となす次の一手を皆で考えてみては如何でしょうか？そしてコロナ禍が落ち着いた来年の支部総会で、各々のアイデアを披露すると言うのは、大胆すぎるでしょうか。

ともかく、皆様が健康で大禍なく過ごされることを願っております。

元気に乗り越えよう

旭陵同窓会会長 木下 毅(第37期生 / 1960年卒)



おかげ様で、下関西高等学校100周年記念行事もほぼ終わり、100周年記念会誌の編纂に取り組んでいる。今、世界は新型コロナウイルス(COVID-19)感染症の蔓延で大変な状況である。日本でも感染が広がり緊急事態宣言がなされ、会議や催事はほとんど中止やweb開催となっている。下関のコロナ感染患者は4月12日までに6人発生し、その後は発生なく過ごしていたが7月22日に3ヶ月ぶりに発症があり現在23人となっている。いずれも東京、福岡など市外の人々が原因の感染で、感染経路不明はない。2波、3波の感染もいつ起きるかわからない。経済も落ち込み失業者も増えている。市内のホテルやレストランも再開はしたが客足は鈍い。病院も5月は患者数が減少したが徐々に回復している。

旭陵同窓会も本部総会は来年に延期とし、東京はじめ各支部とも、延期、中止となっている。

今年は学校の卒業式・入学式も簡素化され、在校生、家族や来賓の参加なしで短時間に行われた。もちろん同窓会会長の祝辞もなく、ほっとしていることもあるがさみ

しさもある。6月の文化祭も中止となり、JR西日本副会長の木島達夫さん(50期)にお願いしていた旭陵文化講演会は取り止めで、同窓会活動もほぼなくなっている。

市の自粛は続いており、4月の海峡ウォーク、5月の先帝祭等、8月の関門花火大会、8月の馬関まつりは中止となった。1日も早く新型コロナ感染が収まり、普通の生活ができる状態になるのを願っている。

下関の新型コロナ感染者は少ないが、これは交流や若年者が少ないためでもある。人口減少は避けて通れない。都市部に出ている下関の人々が下関の活性化に力を注いでくれるとありがたい。来年はいつも通り総会ができるように世の中が落ち着いている事を願っている。

今年は猛暑も続いているが同窓生の皆様がお元気に過ごされ、来年の同窓会でお会いできるのを楽しみにしています。

創立百一周年、新たなるスタート

山口県立下関西高等学校長 山田 哲也



旭陵同窓会東京支部の皆様におかれましては、御健勝にて御活躍のことと心からお喜び申し上げます。また、同窓生の皆様方には、平素から本校教育の推進に多大なる御支援と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

私は、昨年度末をもって御退職された山根敬二前校長先生の後任として着任しました山田哲也と申します。「天下第一関」の校是の下、多数の卒業生が国内外で活躍され、輝かしい歴史と伝統を刻んできた下関西高の校長を拝命し、身の引き締まる思いであります。どうぞよろしくお願いたします。

このたびは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本年度東京支部総会が延期となり、皆様とお会いできませんこと、大変残念に思います。本感染症の終息により、皆様と心置きなく歓談できる日が一日も早く到来することを願っております。

さて、今春も新たに235名が卒業し、旭陵同窓会の会員となりました。また、平成29年度に新学科として設置された「探究科」は今春一期生を送り出しました。3年間を通して生徒たちは努力を積み重ね、教職員も一丸となって生徒の指導に当たりました結果、今春の大学入試の合格状況は、国立大学の現役生合格者数は昨年度よ

り20名多い113名、合格率についても上昇しました。とりわけ、東京大学や東京工業大学、京都大学への現役での合格等、いわゆる難関大学への合格者も増加するなど、着実な成果を上げることができました。さらに、平成30年度からは文部科学省からスーパーサイエンスハイスクールの指定を受けています。これにより、理数教育や探究活動の充実とともに県内外の高校生との切磋琢磨の機会も増しており、これに加え、山口県教育委員会指定の次世代型教育パイオニア校としての取組も通して、教育内容や教育環境の一層の充実にも努めているところです。

創立百一周年、新たなるスタートともいえる本年、全日制普通科・探究科、定時制普通科の各学科の特色を生かしながら、変化の激しいこれからの社会で活躍できる有為な人材の育成に向けた教育活動の充実に取り組み、生徒一人ひとりの夢の実現を支援してまいりますので、引き続き御支援を賜りますようお願い申し上げます。

末筆となりましたが、旭陵同窓会東京支部のますますの御発展と会員の皆様の御健勝と御活躍をお祈り申し上げ、御挨拶といたします。

百周年記念事業を終えて

旭陵同窓会幹事長 判野 充昌 (第37期生 / 1960年卒)



新型コロナウイルス感染が拡大しており、先の見えない事態が続いています。東京支部の皆様には、健康(特にコロナウイルス)に気をつけられ、この事態を無事乗り切られることを心からお祈りしています。

さて、百周年記念事業も皆様のご寄附をはじめ、あたたかいご支援をいただき昨年4月19日に「旭陵館」の竣工式、令和元年11月8日に下関市民会館にて盛大なる百周年記念式典を挙行了しました。お陰様で新型コロナウイルス拡大前に主要行事が終わりほっとしている今日この頃です。

ここで、百周年記念事業についてご報告申し上げます。取り組みの概要は次のとおりです。

- (1)平成23年8月準備委員会設立
- (2)平成25年2月実行委員会設立(委員長 木下 毅)
- (3)旭陵同窓会会員名簿の更新(平成27年)
- (4)寄附金の募集(平成29年1月～平成31年1月)
- (5)旭陵館の竣工(平成31年3月)
- (6)百周年記念式典の挙行(令和元年11月8日)
- (7)実行委員会を38回開催

次に百周年記念事業の予算・決算について簡単に述べます。

(収入)	(単位：千円)
寄附金	101,470
旭陵教育会基金	54,250
広告協賛金(概要版)	4,960
計	160,680

(支出)	
旭陵館建設費等	155,720
概要版「天下第一関」作成費等	4,960
計	160,680

終わりに悲しいお知らせがあります。実行委員会の一人として、又、各支部との連絡調整等熱心に取り組んでいただいた校内幹事の中井茶羽(70期)先生がお亡くなりになり、6月18日に葬儀がとり行われました。旭陵館の玄関口に銘板「旭陵館」が掲げられておりますが、彼女の遺筆になりました。鑑賞いただければと思います。

コロナ禍の先の未来へ

2019(平成31/令和元)年度当番幹事代表 岩崎博文(第65期生 / 1988年卒)



東京支部総会の2019年(令和元年)当番幹事を務めました65期の岩崎博文と申します。この度、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に罹患された方々・ご家族・関係者の皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

また、同窓生の中にはコロナウイルスの感染拡大防止にご尽力いただいている方も多くいらっしゃると思います。全ての皆様に心より感謝申し上げます。

昨年度支部総会を開催し、後輩へバトンタッチした時には思いもよらないコロナ禍に見舞われ、大変残念でもありますが、世界の情勢を鑑みるとやむを得ず、早々に支部総会延期を決断した当番幹事や関係した方々の判断に敬意を表します。

振り返れば今年の春には東京近郊へ上京してきた卒業生を迎えて、東京ウェルカムパーティーを開催させていただきました。新卒の皆さんの希望と未来に溢れた眩しさに、30年以上前の卒業生の我々もとても幸せを感じられるひと時となりました。しかしながら、今年も同じように上京してきているであろう卒業生に思いを馳せると、彼らは下関を離れ、今どんな思いでステイホームしているのでしょうか。3月には上京し、一人暮らしを始めて、夢と希望をもってキャンパスライフを楽しみにしていたことと思います。そんな若き同窓生の貴重な時間を奪ったコロナ禍に

やりきれない思いを感じます。

また私を含め、東京勤務の会社員の多くの同窓生が在宅勤務(テレワーク)を経験したことと存じます。これまでもテレワークが推奨され、遠隔テレビ会議、電話会議も導入されていたかと思いますが、まさか自分が会社員現役の間に、自分を含めた取引先全員が在宅で業務に対応するような時代を体験するとは思いませんでした。本当にこの勤務形態がニューノーマル、withコロナといわれる標準スタイルになっていくのか、誰も今後が予測できない世の中になろうとしていると思います。

当番幹事として毎週のように集まり、密に打ち合わせを行って開催させていただいた昨年度の支部総会。300名を超える同窓生の皆様にご参加いただき、密な会場でお会いできたことがどんなに幸せだったことか、思い知らされた2020年度の前半でした。

だからこそ、コロナ禍を乗り越えた先にある支部総会の開催を心より期待し、応援させていただきたいと思っています。我々は必ず乗り越えることができる、それを信じて。

コロナ禍で再認識 我らは西高卒業生

2020/21(令和2/3)年度当番幹事代表 秋葉良和(第66期生 / 1989年卒)



旭陵同窓会東京支部の2020/2021年度の当番幹事代表を務める秋葉良和と申します。新型コロナウイルス感染症に感染された方、ご家族の皆様にご挨拶申し上げます。また、感染拡大防止にご尽力いただいている全ての方々に深謝致します。

2020年度の東京支部総会、皇居を臨む最高のロケーションにて、参加する老若男女すべての同窓生の思い出に残る会を開催できるよう当番幹事一同かなりの頻度で打ち合わせを重ねて参りましたが、新型コロナの世界的な感染拡大を受け、誠意検討を重ねた結果、一年延期の決断に至りました。仕切り直しの2021年度総会も引き続き幹事を務めさせていただきます。延期になる分、より一層盛りあがる会となるよう幹事一同力を合わせて取り組めますので、お力添えのほど何卒よろしくお願い申し上げます。少子・人口減少の時代ではありますが、昨年100周年を迎えた下関西高が、次の100年につなげるためにも、若い世代の掘り起こしに重点を置きます。卒業したばかりの10代から20代の若い世代に魅力あるワークショップ等の交流の場を設け、かつ老若男女問わず同窓生の皆さんが参加したくなる、ワクワクする新しいコンテンツの提供を計画しています。

さて、この度はせっかく寄稿の機会をいただきましたので、「下関西高」、「下関」、そして「コロナ禍」をキーワードとして少し述べてみたいと思います。下関西高で過ごした3年間。人生においてかけがえない時間であり、自己のアイデンティティが確立した期間でもあります。恋に、勉強に、部活に夢中になった日々、生徒会長を務め、全校生徒の前で披露した伝統の赤フン踊りなど、卒業して30年以上経つ現在も昨日のことに感じます。

下関西高で学んだことは2つ。『真摯に物事に取り組む、時には遊び心をもって』『どんな逆境も考えを切り替えることにより楽しんで取り組むことができる』私なりの極端な「西高魂」の解釈ではありますが(笑)。

大学進学のため上京、卒業後は商社に就職。商社マンとして世界中を飛び回っていた時も、その後独立し、自身で経営をするようになった現在も、西高そして故郷下関に常に誇りを持って人生を歩んできました。現在は貿易企業とアドバイザー企業を運営し、東京・欧州・アジアに拠点を置いて業務対応、(次頁へ続く)

(前頁から続く)また大学にてビジネスや海外人事の研究や講義を行なっています。

また、昨年よりご縁があり、下関市が組織する下関地域商社の海外ビジネスアドバイザーとして前田市長より直々に任命いただき、下関の事業者の皆様と深く関わるようになりました。社会人になってから下関と仕事に関わることが全くなかったのですが、昨年より仕事でも、旭陵同窓会を通じたプライベートでも下関とのつながりが深まり、驚くと同時に感慨深く感じています。大変光栄なことと捉え、現在は下関を盛り上げるべく誠心誠意取り組んでいます。

つい先日も下関の事業者のみなさんを対象とするセミナーを実施しました。コロナ禍ということもあり、会場を使用するリアルセミナーではなく、ウェブセミナーの形式で実施、100名近くの方々にご参加いただきました。そこでみなさんにお伝えしたのは、次の内容です。

現在様々な業種の方がコロナ禍の影響を受けていますが、視点を変えると下関の事業者が世界に羽ばたく大きなチャンスの時期とも捉えることができます。

保守的な日本。「よほどの時」しかビジネスの常識は変わりません。しかしコロナ禍における今はその「よほどの時」に当てはまります。生活の中にもオンライン化が浸透してきましたし、これまでは実際に足を運ぶことが重要

であった商談も最近ではオンラインミーティングが一般化してきました。有名な企業であっても大きなオフィスを構えるのではなく、サテライトオフィスや在宅勤務にシフトをしていく流れになっています。ビジネスの中心は東京の一極集中であったものが、業種によっては日本全国に分散の動きもあるし、下関をはじめとする地方の事業者にとってはオンラインをうまく取り入れることにより新しいビジネスチャンスを掴むことも可能となってきます。

もっと言えば、オンライン化の波は日本だけではなく世界に広がっている状況下、下関から世界にも通用するスター企業が生まれるかもしれません。一旦動き出した波はある程度続き、それが永年にわたってのスタンダードに変わっていきます。短期的なビジネスチャンスを掴み利益を上げていくことも大事ですし、コロナが収束した後のことも考慮し、俯瞰的な視点から中長期的なビジネスチャンスを考えることも同時に重要。ベストを尽くそう。

あれっ？こうしてセミナーで述べた内容を振り返ってみると、前述の「どんな逆境も楽しむ西高魂」に繋がりますね。やはり私の人生におけるアイデンティティの礎は下関西高なのでしょう。下関西高卒業生であること、旭陵同窓生であることを改めて誇りに思います！

旭陵ゴルフクラブ

今出 宏則

若者よ、ゴルフをしよう！

(第63期生 / 1986年卒)

最近では若者のゴルフ人口は減ってきているという。ゴルフに対していったいどんなイメージをお持ちなのだろうか？実は、ゴルフはぶち面白いスポーツなのである。そしてただ単に面白いだけじゃない、誠に奥深いものである。個人的にはゴルフの面白さは人間の狩猟本能を刺激するからではないかと考えている。ゴルフは人力で最も遠くまで物を飛ばせるスポーツであることをご存知だろうか？直径約4センチの球を300メートル近く飛ばせる。そのくせ、最終目標は10センチあまりのカップである。これはナウマンゾウを追いかけた我らの祖先が、遠くへ槍を飛ばし、小さな獲物に命中させるという、まさに狩猟そのものではないか。命をかけて獲物を仕留めた祖先はいかに喜んだことか！ゴルフの喜びはそれに似ている。クラブの芯に当たった時、10メートルのパットが決まった時、体に電流のように流れる刺激は、他に形容し難い、しびれ

るような快感である。人類の根源的な本能を大いに刺激するスポーツなのである。

ゴルフは運不運が交錯する。OBかと思った打球が木に当たってフェアウェイへ。はたまたナイスショットしたはずが、他人が打ったあとのへこみにボールが入ったり、結果はアンフェアである。フェアではない結果に対してどう向き合うか人間力が問われる。その経験が人間的な成長につながるのだ(ほんの少しだけど笑)。

ゴルフは審判のいないスポーツである。自分が審判である。これもまた自己規制が求められる。誰も見ていないのである。そこには大きく甘い悪魔の誘惑がある。それを振り切るのもまた人間的成長に貢献する(これもまた少しだけどね)。

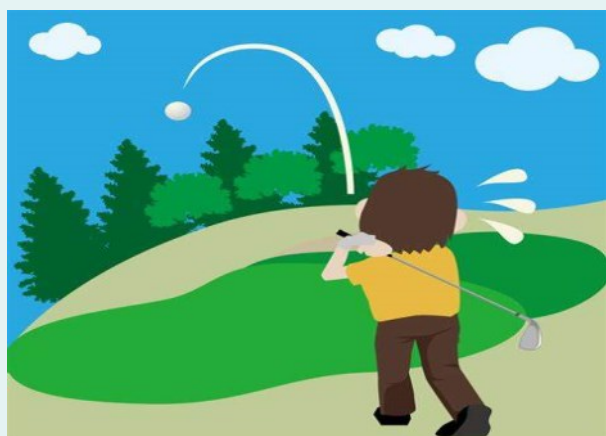
もちろん仕事にも役立つ。ただ単に出会いの場というだけではない。スタート時どうやってコースを



攻めるのか頭の中でシミュレーションする。危険を冒して狙うのか、それとも安全なルートを進むのか。もちろん計画通りに行くことは少ないが、事態に臨機応変に対応しなくてはならない。ゴルフは頭でするスポーツなのだ。また、思い通りいかないことに対して自分がどう向き合うかが問われる。ゴルフは遅々として上手にならない。その事実に対して投げ出してしまおうのか、それとも少しずつコツコツと小さな進歩を積み重ねていくのか。まさに仕事に対する向き合い方と酷似している。

それらゴルフをやるメリットはあげればキリがないが、要するにゴルフは人生に効くということだ。ゴルフをするプラスの喜びだけではなく、人生に必要な忍耐や、自然を慈しむ心、他者に対する心配り、道具を愛する心など、得るものはとても大きい。つまり人として成長するという事なのだ。そんな厳しくもぶち楽しいゴルフというスポーツを長年続けてきた、人格者として良い見本が旭陵ゴルフクラブにはゴロゴロいらっしやる！これを人生の手本としないのは、なんたる機会損失であろうか！？

旭陵ゴルフクラブは年2回のコンペを重ね、なんと50回も続いている。そんなに長く続いている会は滅



多にない。やはりその精神的支柱は永世名誉会長である中部銀次郎(37期)先輩であろう。もうお亡くなりになっているが、ゴルフをちょっとかじった事のある人であれば誰でも知っている。「中部銀次郎さんが高校の先輩なんです～」と言うと、ちょっと鼻が高い。山時会長(33期野球部0B)をはじめとし人格者の先輩方が温かく見守ってくれる。そして旭陵ゴルフクラブの屋台骨を支えるのは事務局の磯部先輩(57期バスケ部0B)だ。企画立案は勿論のこと、東京駅発着のバスをチャーターし、その運転手までしてくださる正に縁の下の力持ちである。その手先として和田君(71期)、高山君(72期)、田坂君(82期)が下支えし、会の発展に寄与している。1年ほど前になるが、ゴルフを始めたいという若い0Gの為に懇切丁寧に練習会など企画したりしているのだ(何か他の目論見があるのかもしれないが…)。

50回大会は2019年10月26日スパ&ゴルフリゾート久慈にて、記念大会として泊まりがけで盛大に行われた。51回大会はコロナ禍の為延期となっているが、次回が楽しみで仕方ない。西高という共通点だけで、年齢も会社も住む所もかけ離れた繋がりが得られる、この稀有な集まり、それが旭陵ゴルフクラブである。是非人生の成功者として見習うべき先輩方との出会いをを楽しみにして参加して欲しい。

最後に、少しでも旭陵ゴルフクラブに興味のある方は、照れずに63期の今出までご連絡いただきたい(私も会計のお手伝いをしている)。歓迎しますよ！メールは dechi43@gmail.com まで。

注)あくまで個人的な感想ですので、間違っていることも多々あるかもしれません。笑

現役西高生だより

新型コロナウイルスの感染拡大は、我々の母校にも大きな影響を及ぼしました。

授業は、部活動は、学校行事はいったいどうなっているのか。。

西高の状況について、生徒会役員のみなさんからレポートしていただきました。

コロナ禍の西高生活 生徒会長(3年) 田中 雅彦

二月の半ば頃、僕はある文章を練っていました。生徒会長として、卒業式で送辞を読むという大任があったのです。先生方のお力添えのおかげもあり、なかなか良い文ができたように思います。しかし、ここで一報が舞い込んできました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で卒業式の規模が縮小となり、在校生は式に参加できないことになったのです。最初は耳を疑いました。そしてその次には悲しみと無力感が込み上げてきました。努力して書いた送辞を読めなくなったこと以上に、先輩方に別れの言葉一つも直接伝えられないことが虚しかったです。

そのまま三月中の休校が決まりました。流行を防ぐためには仕方無いと納得しながらも、我々生徒は先の見えない不安に苛まれることになりました。つい先日まであった日常というものが、最早存在しない。級友や部活の仲間と会えない。不自由さを感じながら、我々は家での時間の過ごし方を模索していました。もちろん西高生として、勉学に勤しみたい気持ちが大きかったです。孤独な日々の中ではやる気を維持するのが難しく感じることも幾度となくありました。それでも、志を同じくする友と電話やSNSで励まし合ったり、積極的に息抜きを取り入れたりして、なんとか目標へ向けて努力を積み重ねることができたように思います。

休校は三ヶ月近く続き、再開は五月の末のことでした。再び学校に通えるようにはなったものの、

その様子はやはり感染対策仕様に变化しています。息の詰まるような思いになることもあります。皆折り合いを付けて、自分自身のための勉強を心がけて努めています。

学校行事もかなり影響を受けました。旭陵祭、クラスマッチ、野球応援は中止となっています。僕は生徒会長、さらには野球応援団団長としてこれらの行事には大変力を入れたいと思っていたので、心底残念です。また、かろうじて開催できそうな体育大会も、かなり規模は縮小されており、さらには地区割も従来の出身中学校別ではなく機械的な振り分けとなるなど、大変様変わりしたもののなっています。

きっと、辛い思いを抱えていない生徒は誰一人としていません。しかし、限られた範囲ではありますが、自分たちの高校生活の証を少しでも残せるように、悔いなく卒業できるように、そして希望する進路に向かって羽ばたけるように、目の前の壁に一つ一つ立ち向かっていく所存です。

【編集委員注】

体育大会は9月5日の午前中に開催されました。台風9号と10号の間だったにもかかわらず、雨に降られることもなく全てのプログラムを実施することができました。応援合戦では南部が、総合では北部と西部が同率優勝でした。



△ 学校説明会・交流会での生徒会役員の活動模様



△ 令和二年度の生徒会役員のみなさん

生徒会長: 緊急事態宣言で急に臨時休校になったけど、みんなどう過ごしていた？

2年女子: 睡眠時間が増えて、スマートフォンを持つ機会が多くなった。

3年女子: わかるー。やっぱり学校に来て、みんなと会わないとやる気は起きない。

生徒会長: そうだね。勉強の効率は確実にさがったよね。受験生だから、不安とかない？

3年男子: やっぱり不安。それに、旭陵祭もクラスマッチもなくなったし。せめて、午前中だけでもいいから、体育大会は実施して、何か一つでも行事をしたい。

3年女子: 旭陵祭やりたかったな。みんなでお揃いのクラスTシャツ作りたかった。

2年女子: 体育大会(9月5日午前開催予定)はやりたいな。

2年女子: 私たちも、先輩と一緒に何かして、思い出を作りたい。このまま感染が拡大し続けたら、校外研修(修学旅行)もどうなるかわからないし…。普通科は北海道だし、探究科は沖縄、いけるといいけど。

3年男子: 探究科は普段は海外(シンガポール)だけど、今年海外は難しく、国内になったんだね。

2年女子: そうですね。海外の校外研修を楽しみにしている生徒もいるから残念…。

2年女子: 私の妹の修学旅行は、山口県内になったよ。

生徒会長: Go To トラベルキャンペーンもやってるし、コロナウイルス感染症が落ち着いて校外研修に行けるといいね。臨時休校明けの学校はどう？

3年男子: 夏休みが短いのは正直しんどい。外は暑いけど、教室は換気しながら冷房をかけるから、寒い時もある。マスクを常時していることで、熱中症のリスクも高い。でも、これ以上、授業が遅れるのも心配だし。卒業アルバムも、マスクしてる風景だよ。Withコロナ時代。

生徒会長: 部活動とかも引退試合がなくなって大変そうだね。

3年男子: 最後の引退試合がなくて、悔しい思いをしている友達がたくさんいる。山口県は、県独自のメモリアルカップを開いてくれたから、参加できた部活もあるから少しはいいのかな。吹奏楽部は動画撮影して、引退とかしていたしね。

2年女子: 夏の野球の試合も無観客だったから、野球応援も今年はなかったから寂しい。

来年はあるといいな。

生徒会長: コロナ禍の中だけど、生徒会としてできることを頑張っていきたいね。行事はなくなって、アルコール消毒、手洗い、マスク着用と新しい生活様式の中の学校生活だけど、現役の西高生は頑張っているって先輩方にも伝えたいね。

3年女子: そうだね。みんなで力を合わせて頑張ろう！

※ 恥ずかしいので発言者名は匿名にしました

【編集委員注】北海道(普通科)、沖縄(探究科)への校外研修(修学旅行)は残念ながら中止となりました。かわりに日帰りバス遠足になる予定とのことです。

生徒会役員 座談会

大学進学実績 令和2年3月期 大学入試結果(下関西校進路指導部より)

大学等合格者数

大 学 名	現役	既卒	計
国 立 大 学	113	42	155
公 立 大 学	13	6	19
私 立 大 学	231	140	371
大 学 校	3	3	6
短期大学・その他	7	1	8
合 計	367	192	559

合格率・進学率	R 2	H 31	H 30	H 29	H 28
国公立合格率	53.6 %	47.1 %	50.4 %	56.3 %	50.4 %
現役合格率	85.8 %	74.2 %	78.2 %	81.6 %	79.3 %
現役進学率	75.9 %	68.3 %	67.9 %	74.1 %	70.3 %

(国立大学)

大 学 名	現役		既卒		計
	男	女	男	女	
東 北 大	3	1	0	0	4
筑 波 大	0	0	1	0	1
埼 玉 大	0	0	1	0	1
千 葉 大	1	0	0	0	1
東 京 大	1	0	0	0	1
東 京 工 業 大	2	0	1	0	3
横 浜 国 立 大	2	0	0	2	4
福 井 大	0	1	0	0	1
豊 橋 技 術 科 学 大	1	0	0	0	1
名 古 屋 大	1	0	0	0	1
三 重 大	1	0	0	0	1
京 都 大	2	0	1	0	3
大 阪 大	2	1	2	0	5
神 戸 大	3	1	2	0	6
兵 庫 教 育 大	1	0	0	0	1
岡 山 大	6	4	1	0	11
広 島 大	3	4	1	0	8
山 口 大	20	10	5	5	40
愛 媛 大	0	0	0	2	2
九 州 大	5	6	7	0	18
九 州 工 業 大	7	2	1	0	10
福 岡 教 育 大	1	0	0	0	1
佐 賀 大	0	2	0	0	2
長 崎 大	3	1	4	0	8
熊 本 大	3	3	1	1	8
大 分 大	1	1	2	0	4
宮 崎 大	0	3	0	0	3
鹿 児 島 大	2	1	1	1	5
琉 球 大	1	0	0	0	1
国 立 大 学 計	72	41	31	11	155
	113		42		

(公立大学)

大 学 名	現役		既卒		計
	男	女	男	女	
会 津 大	1	0	0	0	1
東 京 都 立 大	0	0	0	0	0
横 浜 市 立 大	1	1	0	0	2
京 都 府 立 大	0	0	0	0	0
大 阪 府 立 大	1	0	2	0	3
兵 庫 県 立 大	0	1	0	0	1
山 口 東 京 理 科 大	0	1	1	0	2
山 口 県 立 大	0	1	0	0	1
下 関 市 立 大	1	1	0	0	2
北 九 州 市 立 大	2	0	0	1	3
福 岡 県 立 大	0	0	0	0	0
福 岡 女 子 大	0	1	0	0	1
長 崎 県 立 大	0	1	0	0	1
熊 本 県 立 大	0	0	0	1	1
大 分 県 立 看 護 科 学 大	0	0	0	0	0
宮 崎 県 立 看 護 大	0	0	0	1	1
公 立 大 学 計	6	7	3	3	19
	13		6		

(所管外大学校)

大 学 名	現役		既卒		計
	男	女	男	女	
防 衛 医 科 大 学 校	0	0	0	1	1
防 衛 大 学 校	1	0	1	0	2
水 産 大 学 校	1	1	1	0	3
所 管 外 大 学 校 計	2	1	2	1	6
	3		3		

(私立大学)

大 学 名	現役		既卒		計
	男	女	男	女	
国際医療福祉大	2	2	0	0	4
自治医科大	0	0	1	0	1
千葉工業大	0	0	1	0	1
青山学院大	1	0	3	0	4
北里大	2	0	0	2	4
杏林大	2	0	0	0	2
慶応義塾大	3	2	0	0	5
工学院大	2	0	0	0	2
芝浦工業大	1	0	0	0	1
上智大	0	1	0	0	1
専修大	2	1	0	0	3
創価大	0	1	0	0	1
拓殖大	0	0	2	0	2
中央大	2	2	1	0	5
帝京大	2	1	0	0	3
東京理科大	4	0	8	1	13
東洋大	0	1	2	0	3
日本大	2	0	0	0	2
法政大	3	3	1	0	7
明治大	4	2	3	0	9
立教大	1	0	0	0	1
早稲田大	1	3	1	0	5
麻布大	0	0	0	1	1
神奈川大	2	1	0	0	3
産業能率大	0	1	0	0	1
フェリス女学院大	0	1	0	0	1
金沢工業大	2	0	1	0	3
名古屋外語大	0	0	0	3	3
豊田工業大	0	0	1	0	1
京都産業大	7	0	0	0	7
京都女子大	0	2	0	1	3
京都薬科大	0	0	1	0	1
同志社大	7	1	10	1	19
同志社女子大	0	1	0	0	1
立命館大	21	9	15	5	50
龍谷大	0	1	0	0	1
大阪薬科大	0	0	1	0	1
関西大	1	2	1	0	4

大 学 名	現役		既卒		計
	男	女	男	女	
関西外語大	0	4	0	1	5
近畿大	14	2	13	3	32
摂南大	1	0	0	0	1
四天王寺大	0	0	0	1	1
関西学院大	0	6	4	0	10
神戸女学院大	0	0	0	2	2
神戸薬科大	0	1	2	0	3
岡山理科大	2	0	3	0	5
川崎医科大	0	0	1	0	1
川崎医療福祉大	3	1	0	0	4
就実大	0	2	0	0	2
ノートルダム清心女子	0	1	0	0	1
日赤広島看護大	0	1	0	0	1
広島経済大	1	0	0	0	1
広島修道大	1	1	2	0	4
福山大	0	1	0	0	1
広島文教大	0	0	1	0	1
安田女子大	0	6	0	0	6
梅光学院大	0	0	0	2	2
四国学院大	0	1	0	0	1
九州栄養福祉大	0	4	0	0	4
九州産業大	0	0	1	0	1
九州女子大	0	2	0	0	2
久留米大	1	2	1	0	4
産業医科大	1	0	0	0	1
西南学院大	2	6	11	4	23
西南女学院大	0	6	0	3	9
純真学園大	0	0	0	1	1
第一薬科大	1	0	0	0	1
中村学園大	0	6	1	1	8
福岡大	12	21	5	2	40
福岡工業大	2	0	5	0	7
福岡女学院大	0	0	0	1	1
福岡看護大	0	1	0	0	1
崇城大	0	1	0	0	1
日本文理大	1	0	0	0	1
立命館アジア太平洋大	1	0	1	1	1
私立大計	117	114	104	36	371
	231		140		

コロナ禍に思うこと 当番幹事代表 安藤 利博(第82期生/2005年卒)



私は今年度旭陵同窓会本部総会の当番幹事代表を務めました安藤利博と申します。皆様ご承知のとおり、今年度の旭陵同窓会本部総会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の為、残念ながら中止となりましたが、次年度は、これまで通り開催できることを祈念し、私の思いを述べさせていただきます。

現在私は、下関市役所職員として働いておりますが、3年前までは福岡市役所に勤めておりました。地元・下関に帰郷し、この代表幹事の話をしていただいた際、使命のようなもの、また、地元との縁を感じ受けさせていただきました。当初は、「令和元年、西高創立百周年」というメモリアルな会の「次の年」ということで、昨年同様に盛り上げることができるのか、また代表幹事として仲間をまとめ総会を成功させることができるのか常に不安を感じながら準備を進めておりました。

わずかながら総会のイメージがついてきた2月、新型コロナウイルスの感染拡大が海外だけでなく、日本国内にもみられるようになり、大型イベント中止など異例の事態が各地でみられるようになりました。そして、緊急事態宣言が発出されて以降は、総会準備や協賛企業への挨拶

は感染拡大防止のため一旦中止せざるを得ず、この状況下で準備をどう進めるか、そもそも総会は開催できるのか、未曾有の事態のため、数カ月先の様子など想像がつかず、例年とは全く異なる不安を感じる日々でした。

結果として、本部総会は一時延期、そして7月に中止を決定しました。久々に集まる仲間と準備を進めていた分、悔しく思う気持ちもありますが、この準備作業で感染を拡げることがなかったことに今は安心しています。例年であれば既に総会を終え、代表幹事という重圧から解放されている頃ですが、中止にあたり、同窓会誌へご寄稿頂いた原稿や、協賛いただいた企業への対応、これまでの準備にかかった経費処理等、今までにない課題に直面しており、これら諸課題の解決と来年度の総会開催に向けて協議しているところです。来年度は、代表幹事を83期生に交代し、我々82期生も合同幹事として運営に携わる予定です。感染症との共存を余儀なくされるこの情勢のなか、しっかりと対策を施したうえで、本部総会を開催できるよう尽力いたします。

最後になりましたが、旭陵同窓会東京支部の益々の発展と同窓生の皆様のご健勝を祈念いたします。

関西、頑張ってます！ 関西支部長 阿部 紀一郎(第54期生/1977年卒)



東京支部の皆様にはこの数か月いかがお過ごしでしょうか。大きな影響があった皆様にはお見舞い申し上げます。関西支部では春秋のハイキング、ゴルフ、カニツアーを定例行事としていましたが、コロナはこの活動に大きな影響を及ぼしました。コロナ禍以前の支部総会と今年の準備・中止判断を通して活動を紹介いたします。

昨年2019年9月1日(日)、木下会長、山根校長をはじめ、林芳正参議院議員(56期)、下関市の木村英世理事(55期)を迎え74名の参加を得て第25回支部総会を開催しました。島泰三氏(41期)には、支部創立25周年記念講演として、「アイアイからみた日本人の未来」と題して生物の進化とヒトの将来を、哲学的考察を交えて講義いただきました。島氏と林氏は講義終了後のわずかな時間ではありましたが、講演内容と引用されていた著書について親しく話をしていました。東大紛争の元闘士と元文科大臣の2ショットは旭陵ならではのことでした。

関西支部では1997年より総会時に講演会を実施しています。「会員の知的好奇心を満たす」を目指して開催しているものです。私達の幼い時期には「修学旅行」があって強制的に「修学」させられます。長じると興味に沿ったり必要に迫られ、他の世界に足を踏み込む関心

も時間もなくなってきました。関西支部では「マツコの知らない**」とはいきませんが、修学旅行的企画をしてきました(詳細はHP「旭陵関西」で)。今年もそのような企画をしていたところコロナの猛威と不安が社会全体を大きく変えてしまいました。「目をつぶって耳をふさいでじっとしゃがんで嵐の通り過ぎるのを待っているだけで本当に良いのか？」自問自答の毎日。6月初旬に「最善の感染防止策と万一の際の連絡体制を整えた上で実施の方向で準備を進める」とことと決め、7月初旬に案内を送りました。スケジュールが決まらず本部支部各方面へご迷惑をおかけして申し訳なかったのですが、ぎりぎりまで「何をどのようにすればできるか？」各方面へ問い合わせ、あがいておりました。その中で24名の方から「出席したい」「準備の姿勢を応援している」旨の連絡をいただきました。結局は自治体の要請、会場や連絡の必要から、最終決断日である8/10に中止を決めたわけですが、この言葉はまことにありがたいことでした。

「次回開催」の暁には、先輩・後輩・同級生を交えてこのあたりの顛末を笑いながら振り返りたいと思っています。楽しみに……。

創立百周年記念式典模様

2019年11月8日、記念式典が下関市民会館大ホールで行われ、在校生やPTA関係者、元教職員や同窓生など約1,000人が創立100周年の節目を祝った。

式典では山根校長が「卒業生が国内外で活躍していることは本校の誇りであり、21世紀を生きる生徒たちの目標」と挨拶したほか、村岡嗣政知事、前田晋太郎下関市長(72期)、林芳正参院議員(56期)らが祝辞を述べた。

式典後には吹奏楽部による記念演奏や、国立研究開発法人理化学研究所の戎崎俊一主任研究員(54期)による記念講演が行われた。



旭陵館

創立100周年記念事業の一環として、同窓会によってプール跡地にセミナーハウス「旭陵館」が建設された。2019年3月に完成した後に県へ寄贈され、現在は学校の施設として授業や行事、放課後の自習教室等として活用されている。



ニュー・ノーマルを生きる

1年前には誰もが予想できなかった新型コロナウイルスの世界的な感染拡大。今回、各界の第一線で活躍中の同窓生へコロナ禍をテーマに寄稿をお願いしました。with コロナの時代をどう生きるか、ヒントがあるかもしれません。共に考え、前に進んでいきましょう。

コロナ禍に思う 倉重 英樹(第38期生/1961年卒)

18世紀の産業革命以降、産業資本主義の工業社会が生まれ、20世紀後半には知識社会に、そして20世紀の最後に出現したデジタル技術によりデジタル社会化が急速に進行しています。

この間、人類は、資本主義の下でひたすら経済成長を追い求めて来ました。その結果、経済的豊かさを謳歌できるようになりましたが、経済格差の拡大と環境破壊という21世紀の地球の2大課題に直面しています。米国に見られるような分断、欧州に見られる排外主義やポピュリズムのような社会問題は人々の心を蝕み、人と人の絆や信頼や助け合いの心を失わせ、「自分だけ、今だけ、お金だけ」という利己主義の蔓延する社会に変容させました。他方、ゲリラ豪雨や河川の氾濫、竜巻、海面上昇などの自然災害の増加は、国民の安全保障を危険にさらし、いまやその解決を先延ばしできない状況になっています。

コロナは、しつこく経済成長を追い求める人類に警鐘を鳴らすために派遣されてきたのではないのでしょうか？

デジタル技術とコロナウイルスの共通点は、どちらも人の動きを抑制することです。コロナは危険だから人が動かなくなるのですが、デジタル技術はテレワークで実証されたように通勤しなくても、出張しなくても仕事ができるようになり、この傾向は画像認識や通信技術の進展とともにより顕著になっています。したがってビジネスの視点からのコロナ対策はデジタルトランスフォーメーショ

ン(DX)の推進となります。DXとは、デジタル技術を活用してビジネスの効率化を推進することで、結果的に人は生産活動から解放されますが、経済視点では失業となります。

経済成長志向で国も企業も個人も「お金」、国はGDPを、企業は売り上げを、個人は所得を追いかけていますが、この動きに終止符を打ち、社会関係資本(信頼・つながり・互酬性の規範)を増強する社会価値(生活保障、医療保障、食糧保障、心理的安全保障など各種安全保障の確立)の創造に転換する時期かと思えます。

アダム・スミスは、1776年の『富国論』で、「企業や個人のビジネスは、自由競争下、政府などの統制や干渉を極力受けることなく、市場の原理にゆだねられるべきである」と述べました。いわゆる神の手理論です。他方1759年の『道徳感情論』では、「人間は共感しながら生きる存在であり、その結果経済が生まれた。経済から生み出される富が人生の目的ではなく、目的は心の平静である」と言っています。

成長、成長で疲れ切った社会が「心の平静」を再構築する時期ではないのでしょうか。それを可能にするのは、社会関係資本をベースにした「共感資本主義」への転換です。

<プロフィール>

倉重 英樹(くらしげ ひでき)。シグマクス代表取締役会長。1942年生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業後、1966年日本IBM入社。93年同社取締役副社長。同年、プライスウォーターハウスクーパースコンサルタント代表取締役会長。2004年日本テレコム(現ソフトバンク)代表取締役社長、2006年RHJインターナショナル・ジャパン代表取締役会長。2008年シグマクスを設立、代表取締役CEOに就任。2018年6月より現職。



オジイのCOVID-19闘争

—孫と気兼ねなく会える世界を目指して—

戎崎 俊一(第54期生/1977年卒)

2020年2月、新型コロナウイルスの感染爆発が始まったとき、まず考えたことは、家長として家族の安全を確保することだった。特に乳幼児がいる娘の家族との直接の接触を避け、マスク、手洗い、体温、酸素濃度チェックの励行を娘たちと確認し合った。また、世界の混乱が続き、食料輸入が滞った場合に備えて各家庭内の食料備蓄を増やすことにした。

次は職場である。私が主催している研究室には、10人ほどの部下が所属している。彼(彼女)らの安全に気を配らねばならない。職場におけるマスク、手洗いの励行を確認し、研究所の指示に従いつつ、できる限りの在宅勤務に移行した。

3月に和光で行うはずだった国際会議は中止せざるを得なかった。招待講演者は最後まで来てくれると言い張ったが、高齢な彼らに感染のリスクに晒すわけにはいかない。全球的な損失になりかねない。4月にも横浜で国際会議を主催する予定になっていた。中止をするかオンラインで開催するかについてギリギリの判断を迫られた。最終的には、オンラインで行うことを決断した。図らずもほとんどトラブルもなく、議論も盛り上がった。

その会議では、2018年のノーベル物理学賞を受賞されたムルー先生に基調講演をお願いしていた。その時点で、フランスでは大学が完全に閉鎖されていた。ムルー先生は、秘書さんや仲間の助けのない状態で自宅からシステムに接続しなければならない。案の定、前日のリハーサルで、接続がうまくいかない。1時間にわたって奮闘してようやく接続できたときは、日本の関係者全員が「やったー」と叫んでいた。ムルー先生は、当日ネクタイ・スーツ着用の正装で登場し、堂々たる基調講演をなさった。

一方、理研の同僚である林崎先生が、感染症の早期診断システムSmartAmp法を開発していた。彼は、ずいぶん前からこのような感染症爆発を予見し、それに必要な技術を実に20年もかけて開発していたのだ。神奈川県の実験に代えて新型コロナウイルス用のプライマーセットを2週間という驚異的な早さで完成させた。SmartAmp法は精度が高く、40分以下で結果が分かるので、被験者をその場に留め置き、陽性だったらそのまま隔離することができる。例えば、国際線フライトで、搭乗直前に搭乗者全員の保因子検査を実施できる。経済活動を

止めることなく全球的な感染リスクを大幅に削減できるのだ。これこそが、世界中の人々が求めている技術だ。すでにサッカーや野球の選手に適用し、着々と実績を上げている。

SmartAmp法の技術は確立しているのだが、1時間で数百人の診断を行うには、装置の量産と展開、検査手順の確立と検査者の教育など、解決すべき問題が山積している。2月以来、不眠不休で働いている林崎先生を助けなければならない。知り合いの企業を誘って、検査者への感染リスクや試料混入などによる擬陽性の可能性を極力減らせるような半自動システムの開発に協力させていただいている。

さらに、三密空間の照明を、紫外線を含むようにしてウイルスを不活性化することを考えた。SARS-CoV-2ウイルス(COVID-19病の原因ウイルス)は数分の直射日光照射で大部分が不活性化することが報告されている。太陽に微量に含まれる紫外線がその原因だ。つまり、照明の中に紫外線を積極的に混ぜればウイルスを不活性化できるのだ。人体の接近を検知するセンサーと連動すれば、人が近くにいるときは紫外線レベルを弱めに抑え、遠ざかったら自動的に紫外線強度を上げて、消毒モードに切り替わるような知的な制御も可能だ。電車内や飛行機(国内線も含む)内、病院や役所、公衆トイレ、レストランや居酒屋、運動クラブなど三密が発生する可能性がある場所には早急に紫外線カクテル照明を設置すればよい。こんなアイデアを新聞のコラムに書いたら、複数の企業が呼応してくれた。年内の市場投入を目指して準備を進めている。問題は三密空間であることが分かったのだから、それを技術で抑制してしまえば良い。あまりハイテクではないが、それだけにどこでも安価に適用できる。COVID-19病対策の決め手になるかもしれない。

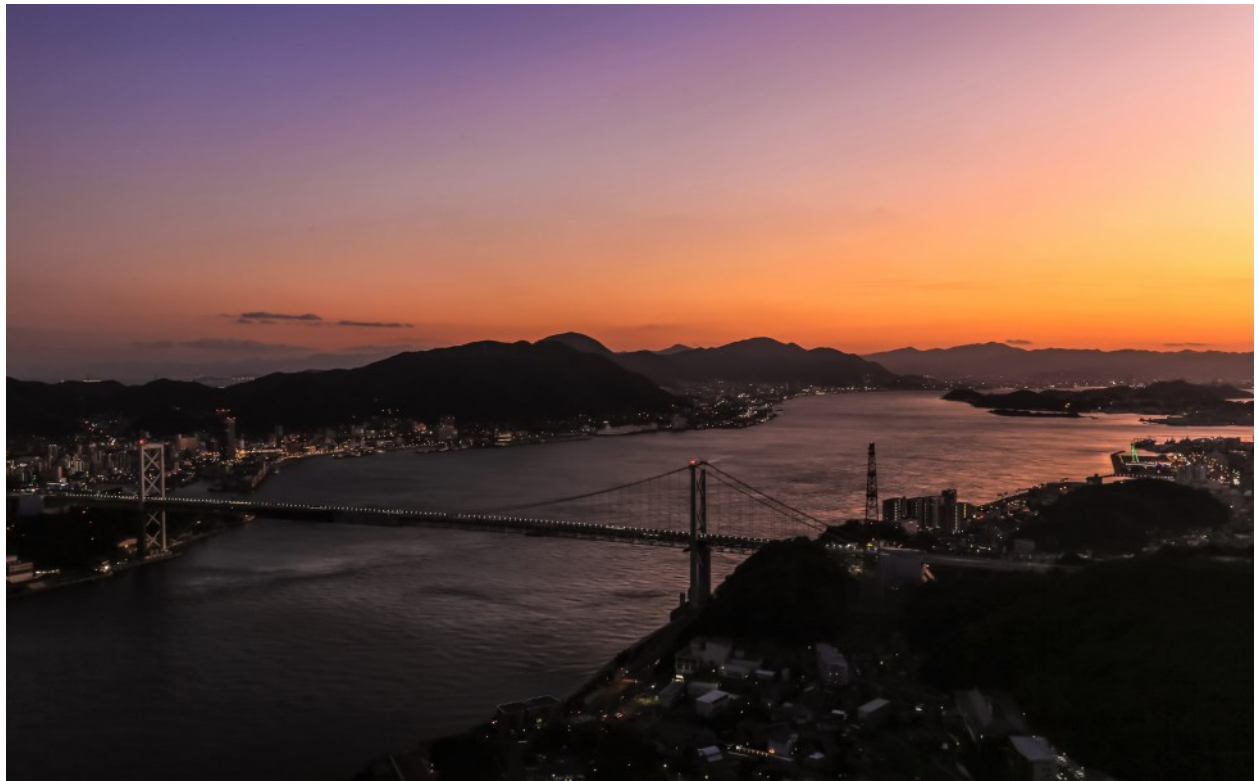
このようにして日本のすべての空間が、世界のどこよりも安全だと世界の人々が確信すれば、2021年のオリンピック開催が視野に入ってくる。自粛ばかりが能ではない。そろそろ働くときだ。進め、オジイ、孫と気兼ねなく会える世界を目指して。

< SmartAmp法とは > 理研が開発したPCRに変わるDNA増幅技術。従来のPCR法と比較して検査機器の小型化が容易で、短時間(40分以内)でウイルス検出が可能等の優れた特長がある。

<プロフィール>

戎崎 俊一(えびすぎき としかず)。独立行政法人理化学研究所主任研究員。1958年生まれ。大阪大学理学部物理学科卒業。東京大学大学院理学系研究科天文学専攻修士課程修了。理学修士を取得。アメリカ合衆国NASA Marshall Space Flight Center研究員、神戸大学理学部助手、東京大学教養学部助手を経て、1991年に東京大学教養学部助教授。1995年より現職。





DATE 2020/01/08 火の山公園から望む関門海峡

MAGIC HOUR IN SHIMONOSEKI

DATE 2019/11/25 長州出島大橋





DATE 2020/07/06 垢田海岸から望む蓋井島

本誌では、2017年度の東京支部総会の企画にご協力いただいた吉鹿雅彦様に故郷下関の写真を提供していただきました。



吉鹿雅彦 1962年下関生まれ。下関市役所勤務の傍ら、故郷下関の写真を撮ることをライフワークとし、自身のInstagram、facebookを通じて数々の作品を発表、下関の新たな魅力を紹介している。本誌の表紙・裏表紙ともに吉鹿氏の作品。Instagram ID : photo.kitibanbi

DATE 2019/11/22 下関港と海峡ゆめタワー



旭陵同窓会東京支部 2019活動報告 / 2020活動計画

2019(平成31 / 令和元)年度 活動報告

- 東京支部会員名簿の整備
- 広報活動(本部交流、広報活動、寄付・広告)
 - 1)旭陵同窓会入会式における当年度卒業予定者への東京支部案内チラシの配布
 - 2)総会案内一式発送
 - 3)東京支部会報「旭陵倶楽部 第29号」の発行および配布
 - 4)東京支部ホームページの更新、SNS(Facebook、LINE)による情報発信(随時)
 - 5)本部・支部・母校および他校・地元自治体の東京出先機関との交流・情報交換
 - 6)寄付・広告の募集
- 常任委員会の開催
 - 平成31年2月3日(日)アルカディア市ヶ谷
 - 平成31年度の活動計画、予算案などの承認
- 中堅・若手交流会および30代後半～40代向け施策の企画・準備・開催
 - 1)東京ウェルカムパーティー
 - 平成31年4月21日(日)ロサンジェルスバルコニーテラス レストラン&ムーンバー
 - 2)幹事引継ぎ忘年会 令和元年12月7日(土)ふくの鳥 神田店
- 東京支部総会・懇親会の企画・準備・開催
 - 令和元年7月28日(日)アルカディア市ヶ谷
 - 平成30年度活動報告・会計報告ならびに監査報告
 - 平成31/令和元年度活動計画、新役員選出
 - 懇親会(テーマ「原点にかえる ～次の100年へ繋ぐ架け橋～」)

2020/21(令和2/3)年度 活動計画

- 東京支部会委員名簿の整備
- 広報活動(本部交流、広報活動、寄付・広告)
 - 1)旭陵同窓会入会式における当年度卒業予定者への東京支部およびウェルカムパーティー案内チラシの配布
 - 2)東京支部会報「旭陵倶楽部 第31号」の発行および配布(西高3年生含む)
 - 3)東京支部ホームページの更新、SNS(Facebook、LINE)による情報発信(随時)
 - 4)本部・支部・他校および地元自治体の東京出先機関との交流・情報交換
- 常任委員会の開催
 - 令和2年2月9日(日)TKP東京駅前会議室 2Fカンファレンスルーム2 令和2年度の活動計画の承認
- 中堅・若手交流会および30代後半～40代向け施策の企画・準備・開催
 - 東京ウェルカムパーティー(令和2年4月に開催を予定)
 - 令和3年度以降に延期
- 東京支部総会・懇親会の企画・準備・開催
 - 大手町三井ホールにて令和2年10月に開催予定
 - 令和3年10月に延期
 - ※新型コロナウイルス流行の今後の流行状況を見極め、ホームページなどで情報を更新

2020(令和2)年度 東京支部役員一覧

支 部 長	第52期	木村 康則*		
副支部長	第55期	長山 恒正*		
顧 問	第28期	須磨 幸蔵	第31期	西本 正
	第32期	吉井 溥	第33期	和田 一雄
	第34期	白井 哲三郎	第35期	木下 陽三
	第38期	倉重 英樹	第42期	吉川 順一
	第46期	栗明 純生	第48期	河田 正也*
	第49期	木村 宏		
常任委員	第21期	池田 治郷	第21期	有田 孝久
	第24期	江川 洋	第28期	西村 明允
	第32期	大塚 有三	第33期	山時 司
	第36期	中川 眞幸	第38期	萩谷 誠美
	第39期	鈴木 重人	第40期	高田 道治
	第41期	竹内 俊文	第43期	土野 耕二
	第44期	梅田 晴正	第45期	安光 正則
	第47期	西 眞慶	第48期	上田 隆実
	第49期	森脇 敏和	第50期	門前 孝志
	第51期	有川 起巳	第53期	新村 篤
	第54期	戎崎 俊一	第56期	林 芳正
	第57期	西本 靖	第58期	村上 泰雄
	第59期	村上 陽一	第60期	岡村 洋巳
	第61期	内田 圭介	第62期	徳永 幸治
	第63期	今出 宏則	第64期	喜多 佳子
	第65期	岩崎 博文*		
会 計	第64期	山田 康成		
会計監査	第65期	前田 克彦*		
WEB委員	第65期	前場 博之	第66期	岡野 伸治*
	第87期	田玉 啓太		
ゴルフ会 幹 事	第71期	和田 剛		
事務局長	第63期	村田 仁		
事 務 局	第63期	真田 高志		

*新任

旭陵同窓会東京支部会報誌
annual [旭陵倶楽部] 第30号
発行日 2020年10月9日
発行人 村田 仁
編集委員 村上 奈美江(66期)、村田 仁、真田 高志(63期)
表紙デザイン/題字 安重 春奈(94期)
表紙/裏表紙等写真提供 吉鹿 雅彦氏
表紙裏写真協力 田中 裕子(65期)、下村 太郎(89期)



< 第66期幹事団 >

★代表 秋葉良和

★メンバー 池辺英治、石飛毅、岡田亜紀子、岡野伸治、
数面弘尚、竹田貴一、谷本和子、富成彰彦、西依伸子、
藤井めぐみ、古永芳子、村上奈美江、安本真留美、
その他第66期の多くの仲間たち

常任委員会にて活動計画の承認をいただき、諸先輩方の激励を受け本格的に活動始動・・・の矢先のコロナ禍。見通しの立たない活動を余儀なくされた第66期幹事団ですが、早々にZoomミーティングを開始し、今年度の支部総会・懇親会の延期という大きな決断を経て、2021年に向けて再始動することとなりました。メンバーそれぞれの生活も影響を受ける中、着手できることから少しずつ、オンラインで親睦を深めつつ、コロナ禍の一刻も早い収束を祈りながら2021年に向けて鋭意活動中です。

そんなわけで第66期の同期生の皆さん、世は生活圏

を超えて繋がるオンラインの時代です。関東近辺、地元下関、日本全国、いや世界中から！まだまだお手伝い大歓迎！よろしく！！



▲昨年の東京支部総会後の同期会にて
◀オンラインミーティング模様

【編集後記】

コロナ禍での完全リモート制作となった旭陵倶楽部第30号。特集記事も広告もない、新しいカタチの会報誌をお楽しみいただけますと幸いです。校内幹事の山野さゆり先生をはじめ、ご協力いただいた皆様に御礼申し上げます(真田)

我が道を行く高校時代を振り返ると、なぜ今私が幹事団というキラキラなお勤めを？という違和感は未だに拭えません。しかし人生に無駄な経験無し、勉強の機会を与えてくださった村田さん、真田さんのお導き、66期幹事団の協力に感謝いたします(村上)

3月半ばから一度も出勤していない令和2年。各位のご支援のおかげで、会報誌発行が実現しました。特に66期幹事団の皆さん、編集の真田さん、村上さん、ありがとう！では会員の皆さま、来年の総会にて笑顔でお会いしましょう！(村田)



annual [旭陵倶楽部]第30号 発行日2020.10.9 発行人/村田 仁 編集委員/村上 奈美江 村田 仁 真田 高志